

新しい時代 新文化運動と哲学

三、『格菴遺録』解説

甘露の海印に付いて

前号で述べたように甘露を降らす方は"弓乙十勝"の'正道霊'になってこの世に出現して来るので天下のは々非々が紛々する。何故ならばその方が正に"格菴遺録の弓乙論"で預言した阿弥陀弥勒仏であり、萬法教主である証標である。

儒仏仙が合致し一氣に改革する似人不人である天の神人の降臨を意味している。

当に人間のように人間に非ず、柿木の如き真人である。それでは、この弥勒様である、求世真人、正道霊を証明する'甘露海印'だが、海印とは石に刻んだ印章のことではなく、"三豊甘露"が海印だと'格菴遺録'では正確に預言してある。次は格菴遺録の<海印歌>の全文である。

「秦皇漢武求下 不老草 不死薬は何処にあるのか

虹の七色 雲霧中に 甘露如雨、海印なり、火雨露三豊 海印なり
化字化字 化字印に無所不能 海印なり」<海印歌の中から>

秦始皇と漢武帝が求めた不老草と不死薬はいずこにあるや。七色の虹、雲と霧の中に甘露が雨の如し、これが海印である。火・雨・露、“三豊”が海印で、極楽世界の入場券を発行するもので、化け能わざるなしの海印である。一方、明らかに海印は甘露、つまり'露の聖神'であり、露聖神は人々に火の如く、或いは雨の如く、または涼しい露の如く感ずるので、それを三つの豊富な(三豊)だと表現している。聖書

と日本の神道ではこれに対し、三種の神器として血と火と煙の柱だとしている。

死ぬべき人を死なずにする露を「生命水」とも言うが、生命水が湧き出ることを指して、“石井”だと言った。次は格菴遺録の<石井歌>の預言全文である。

「生命水 湧水がむくむく天下萬国に通り、善悪 砂気運 吸受 下者でもこの泉に来れば不喪で、利在石井 天井水は 一次飲之延寿する。飲之又飲 連飲者は 不死永生此泉だ。」<石井歌の>中から

生命水の泉がむくむく湧き出、天下万国にみな通り、善悪な砂運を吸受した者も、この泉に来れば死なず、天の井戸である石井が利するから、一度、飲めば寿命が延寿し、続いて飲めば死なず永生するものがこの泉である。

「日日連食 不老草 無腸服 不死薬
此居人民 無愁慮 不老不死 永春節」
毎日続けて、不老草を食せよ、、、。<石井歌の>中から

弥勒様である正道霊、勝利者が毎日、'勝利祭壇'の講壇に永生の秘訣を論じている所に参席するように言っておられる。それが不老不死する初步の秘訣であり律法である。

腹を満たさぬ不死薬である。ここに居する人々は心配や悩みがなくなり、老いず死なずに、永久に若さの春を迎

えん。

5、勝利者の出現

以上の如く、食めれば死なない“甘露海印”をもって弓乙十勝"勝利者"正道霊が、東邦の国、韓国の地に出現されることは疑う余地のない事実だが、それは、いつで、いつの時代なのか？既に去りし過去か、遠い未来ではないのか？否！その時期に対し、格菴遺録は次の如く明示している。

「西洋結実 離去後 登高望遠 察世間
二十世後 今時当 東方出現 結冤解」

西洋で冤恨を結びて離れた後(神が西洋でユダヤ人たちを通して働いたが)高所で遠くこの世を眺められ、二十世紀後半、いま、この時に至りて東方にご出現なされ、結ばれし恨を解かん。だが、単なる二十世紀後半という漠然とした提示だけをしているのではない。より一層、細密にその年代を提示しているので、さすが南師古の預言の緻密性が、どの程度正確であるかがわかる。

「兵事起は 申酉当運 無兵接戦兵事起で

人多死之 戌亥当運 魂魄多死人多死する」格菴遺録の<勝運論>の中から

申・酉に当たる運の年は兵禍が起きる運であり、兵のない戦闘で軍部が立ち上がり戌亥に当たる運は多くの人が死ぬ運で魂魄が多く死に人も多く

死ぬだろう。

ここで申酉というのは庚申年(一九八〇年)と辛酉年(一九八一年)を指している。その理由は、20世紀後半に入っでの、大甲子年が一九八四年で、これを基準に見ると申・酉は、すぐ辛・酉を意味するからである。

二十世紀後半期における甲・子年と乙・丑年は一九八四年と一九八五年しかない。よって、一九八四年、一九八五年を指して、他の古書では単に子・丑として表記する。

果たして、以上の預言の通り、一九八〇年には光州事件をはじめとする幾つかの兵禍が起きたし、八二・八三年には警察官が部落民全員を殺害した事件と、K A L 機襲撃事件、ビルマ・アウンサンの爆破事件等、多くの人命を失くした事件が続けざまに起きた。

「猶未定は 子丑当運 世人不覺猶未定で、事可知は 寅卯当運 四海覺知 事可知だ」

子・丑に当たる運は、世の人々が悟れず「甲子年(八四年)乙丑年(八五年)には、韓国に「勝利者」、正道霊が現れることを知らず躊躇し未定の状態であり、寅卯に当たる運は四海に知れ渡るので、事がしやすくなり、「丙寅年(八六年)、丁卯年(八七年)には、勝利者が四次の世界巡訪を通じ世界各国に道場、祭壇を建立したし、各国の大統領に書信を送り、三十余国から親切な回答が寄せられ、新しい永生の歴史に深い歓心を見せてきた。

また一方、聖人の出現に対し可否が紛々するが、聖人を害せんとする者は死を免れないと言った。

「聖人出は 辰己当運 似人不人聖人出で

樂堂堂は 午未当運 十人皆勝樂堂堂だ」

辰・巳年に当たる運は、人間のよう人間でない神人、正道霊が世間に広く知られるように出現する時「戌辰年(八八年)、己巳年(八九年)、午・未に当たる運は、十人、即ち、勝利者を従う聖徒達みな勝ち、喜びが家中に満つ時が庚午年(九〇年)、辛未年(九一年)になるだろう。

「死之権勢 破砕せんと 天下是非起きるに
克己又世 忍耐勝は 永遠無窮大福なり」

死亡の権勢を破砕すべく天下に是非が起きるが、自我を克服し、また世間を克服して忍耐で勝ち抜けば、永遠無窮に大きな福を受けられよう。

「十年義兵 天受大命 逆天者は亡び

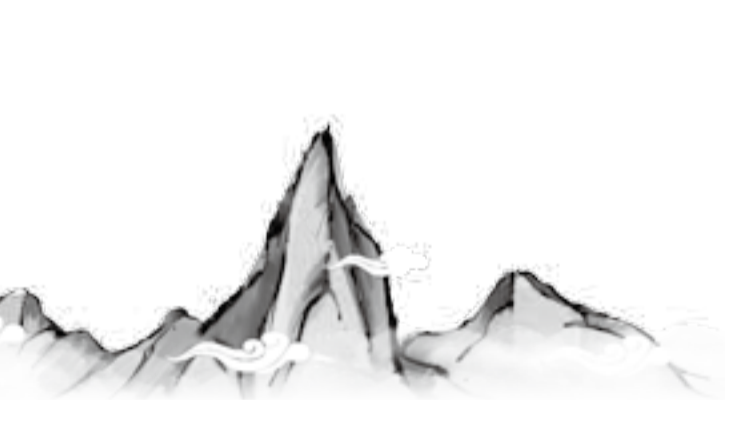
是々非々 知らずば 衆口鉗制有福者だ」

十年(勝利者が治める年代)の義(霊的)兵士、天から大命を受けたので、天の意に逆らう者は亡びん、何が正で、何が否か知らずば衆人の口を鍵の如く締めることに福のある者なり。

聖人がこの世に出現するまでは多くの難問があり、世の人々がこの新しい学問を悟れぬのは世の中の人々が

余りにも悲しいことだとと言った。(世人不知 寒心事)。

마귀가 병을 일으켜 세상이 혼란할 때에 정도령을 만나면 살아날 묘수가 있느니라



아의 상태라야 가능하다. 상고(上古)시대로부터 유가의 도통은 중(中)을 목표로 하였고 도통의 승계는 중(中)의 심법을 전함으로 이어져 왔었다. 도는 천지로 통하며 무형의 밖ে까지 통하느니라. 도통은 마음으로 가는 길이다. 조을시구(聶乙矢口)에서 을(乙)은 새를 말하니 금구조(金鳩鳥) 봉황새 불사조가 되며 시구(矢口)는 알 지(知)자의 파자이다. 죄악이 하늘에 가득차서 하나님이 생사(生死)를 심판하는 날이 오리라.

咸陽三月家安在 함양삼월가안재
靑槐滿庭之月 청괴만정지월
白楊無芽之日地 백양무아지일지
鼠女隱日 서녀은일 三床後臥 삼상후와
十勝十處論 심승십처론
未卜定穴不可生 미복정혈불가생
地理天理十勝 지리천리십승

弓弓地萬無一失 궁궁지만무일शल入者生 입자생
有智無智分別時 유지무지분별시
禍因惡積不免歎 화인악적불면옥
人獸分別兩端日 인수분별양단일
飛火落地混沌世 비화락지혼돈세
西方庚辛四九金 서방경신사구금
從金妙數大運也 종금묘수대운야

정도령은 성령으로 거듭나서 평안하게 계시느니라. 궁궁의 하나님은 목운(林泰善)으로 오실 때 함양 박씨로 오느니라. 함양삼월은 궁궁을을(계룡)이니 정도령이 된다. 금운 정도령(을을)을 알고 받드는 곳은 은혜를 가득 받아 영생을 얻을 것이요. 목운 정도령(궁궁)에서는 아직 천지도수가 이르지 못해 천지공사를 이룰 수 없느니라. 목운 정도령(박태선)은 다리 건너 5리쯤 가면 옛장수 집(승리제단)이 있으니 그리로 가야 영생할 수 있다고 하였다. 목운, 여인 한 분, 금운으로 세 분이 오시

「聖人出は 辰己当運 似人不人

聖人出で

樂堂堂は 午未当運 十人皆勝樂堂堂だ」

辰・巳年に当たる運は、人間のよう人間でない神人、正道霊が世間に広く知られるように出現する時「戌辰年(八八年)、己巳年(八九年)、午・未に当たる運は、十人、即ち、勝利者を従う聖徒達みな勝ち、喜びが家中に満つ時が庚午年(九〇年)、辛未年(九一年)になるだろう。

「死之権勢 破砕せんと 天下是非起きるに
克己又世 忍耐勝は 永遠無窮大福なり」

死亡の権勢を破砕すべく天下に是非が起きるが、自我を克服し、また世間を克服して忍耐で勝ち抜けば、永遠無窮に大きな福を受けられよう。

「十年義兵 天受大命 逆天者は亡び

是々非々 知らずば 衆口鉗制有福者だ」

十年(勝利者が治める年代)の義(霊的)兵士、天から大命を受けたので、天の意に逆らう者は亡びん、何が正で、何が否か知らずば衆人の口を鍵の如く締めることに福のある者なり。

聖人がこの世に出現するまでは多くの難問があり、世の人々がこの新しい学問を悟れぬのは世の中の人々が

余りにも悲しいことだとと言った。(世人不知 寒心事)。

また一方、聖人の出現に対し可否が紛々するが、聖人を害せんとする者は死を免れないと言った。

「聖人出は 辰己当運 似人不人聖人出で

樂堂堂は 午未当運 十人皆勝樂堂堂だ」

辰・巳年に当たる運は、人間のよう人間でない神人、正道霊が世間に広く知られるように出現する時「戌辰年(八八年)、己巳年(八九年)、午・未に当たる運は、十人、即ち、勝利者を従う聖徒達みな勝ち、喜びが家中に満つ時が庚午年(九〇年)、辛未年(九一年)になるだろう。

「死之権勢 破砕せんと 天下是非起きるに
克己又世 忍耐勝は 永遠無窮大福なり」

死亡の権勢を破砕すべく天下に是非が起きるが、自我を克服し、また世間を克服して忍耐で勝ち抜けば、永遠無窮に大きな福を受けられよう。

「十年義兵 天受大命 逆天者は亡び

是々非々 知らずば 衆口鉗制有福者だ」

十年(勝利者が治める年代)の義(霊的)兵士、天から大命を受けたので、天の意に逆らう者は亡びん、何が正で、何が否か知らずば衆人の口を鍵の如く締めることに福のある者なり。

聖人がこの世に出現するまでは多くの難問があり、世の人々がこの新しい学問を悟れぬのは世の中の人々が

余りにも悲しいことだとと言った。(世人不知 寒心事)。

また一方、聖人の出現に対し可否が紛々するが、聖人を害せんとする者は死を免れないと言った。

「聖人出は 辰己当運 似人不人聖人出で

樂堂堂は 午未当運 十人皆勝樂堂堂だ」

辰・巳年に当たる運は、人間のよう人間でない神人、正道霊が世間に広く知られるように出現する時「戌辰年(八八年)、己巳年(八九年)、午・未に当たる運は、十人、即ち、勝利者を従う聖徒達みな勝ち、喜びが家中に満つ時が庚午年(九〇年)、辛未年(九一年)になるだろう。

「死之権勢 破砕せんと 天下是非起きるに
克己又世 忍耐勝は 永遠無窮大福なり」

死亡の権勢を破砕すべく天下に是非が起きるが、自我を克服し、また世間を克服して忍耐で勝ち抜けば、永遠無窮に大きな福を受けられよう。

「十年義兵 天受大命 逆天者は亡び

是々非々 知らずば 衆口鉗制有福者だ」

十年(勝利者が治める年代)の義(霊的)兵士、天から大命を受けたので、天の意に逆らう者は亡びん、何が正で、何が否か知らずば衆人の口を鍵の如く締めることに福のある者なり。

聖人がこの世に出現するまでは多くの難問があり、世の人々がこの新しい学問を悟れぬのは世の中の人々が

余りにも悲しいことだとと言った。(世人不知 寒心事)。

また一方、聖人の出現に対し可否が紛々するが、聖人を害せんとする者は死を免れないと言った。

「聖人出は 辰己当運 似人不人聖人出で

樂堂堂は 午未当運 十人皆勝樂堂堂だ」

辰・巳年に当たる運は、人間のよう人間でない神人、正道霊が世間に広く知られるように出現する時「戌辰年(八八年)、己巳年(八九年)、午・未に当たる運は、十人、即ち、勝利者を従う聖徒達みな勝ち、喜びが家中に満つ時が庚午年(九〇年)、辛未年(九一年)になるだろう。

「死之権勢 破砕せんと 天下是非起きるに
克己又世 忍耐勝は 永遠無窮大福なり」

死亡の権勢を破砕すべく天下に是非が起きるが、自我を克服し、また世間を克服して忍耐で勝ち抜けば、永遠無窮に大きな福を受けられよう。

「十年義兵 天受大命 逆天者は亡び

是々非々 知らずば 衆口鉗制有福者だ」

十年(勝利者が治める年代)の義(霊的)兵士、天から大命を受けたので、天の意に逆らう者は亡びん、何が正で、何が否か知らずば衆人の口を鍵の如く締めることに福のある者なり。

聖人がこの世に出現するまでは多くの難問があり、世の人々がこの新しい学問を悟れぬのは世の中の人々が

余りにも悲しいことだとと言った。(世人不知 寒心事)。

また一方、聖人の出現に対し可否が紛々するが、聖人を害せんとする者は死を免れないと言った。

「聖人出は 辰己当運 似人不人聖人出で

樂堂堂は 午未当運 十人皆勝樂堂堂だ」

「聖人出は 辰己当運 似人不人聖人出で

樂堂堂は 午未当運 十人皆勝樂堂堂だ」

辰・巳年に当たる運は、人間のよう人間でない神人、正道霊が世間に広く知られるように出現する時「戌辰年(八八年)、己巳年(八九年)、午・未に当たる運は、十人、即ち、勝利者を従う聖徒達みな勝ち、喜びが家中に満つ時が庚午年(九〇年)、辛未年(九一年)になるだろう。

「死之権勢 破砕せんと 天下是非起きるに
克己又世 忍耐勝は 永遠無窮大福なり」

死亡の権勢を破砕すべく天下に是非が起きるが、自我を克服し、また世間を克服して忍耐で勝ち抜けば、永遠無窮に大きな福を受けられよう。

「十年義兵 天受大命 逆天者は亡び

是々非々 知らずば 衆口鉗制有福者だ」

善人に悪く対する者が亡びる如く、聖人を憎む者は滅亡し、聖人(正道霊)を害せんとする者は生き残れないのだ。

だが結局、むずかしい峠を越えれば、この神の役事は明らかに成就することになっているのだ。そして、全世界に永生の役事が大きく報道されるから、真僧たちは速やかに下山するよう

に言っている。

「西氣東來 上帝再臨 文明無疑いなく 道神天主 そのように英雄国

で 知らされる

東西一氣 再生身 何人善心 不

和生で 印度仏国 英米露国 特別朝鮮報だ

真僧下山 急破せよ」一格菴遺録格菴歌辞の中から—

西学(基督教)の氣運が東から来て上帝が再臨されたことが明らかで疑う

ことなかれ、天主さまの道がそのよう

で、英雄国からみな来られん。東西洋を合わせた一つの氣運として創出し

たので、如何な人が善心に不和を起こされようが、印度・フランス・英国・米国

・ロシアが、特別に朝鮮で起こることを大きく報道されん。

眞の道を求める僧侶らは速やかに下山するときなりと言っている。

次の号に引き続き掲載

Subaru Kan / 新人類文化研究所長

격암유록 新 해설 수정판 제 6회

1. 남사고비결 南師古秘訣

출사입생信天村 출사입생신천촌

造次不離架上臺 조차불리가상대
坦坦大路永不變 탄탄대로영불변
有形無形兩大中 유형무형양대중
道通天地無形外 도통천지무형외
肇乙矢口眞覺人 노을시구진각인
祈天禱神時不休 기천도신시불휴
惡罪滿天判端日 악죄만천판단일

하나님을 바로 알고 믿는 곳에서 나가면 죽고 들어오면 영생을 얻는 곳이 신천촌입니다.

창조(創造)의 신(神)은 천(天)과 지(地)를 주관하시는 분이시니, 천(天)과 지(地)를 주관하시는 분이신 하나님을 바로 알고 믿는 곳에서 나가면 죽고 들어오면 영생을 얻는 곳이 신천촌입니다. 차례로 분리되지 않게 지어진 가상대(架上臺) 즉 3층으로 된 승리대(勝利臺)는 탄탄대로가 되어 영원토록 변치 않으리라. 승리라 함은 나를 이기고 마귀를 이기고 사망을 이기는 것을 말한다. 그 래야 영생, 구원을 얻는 것이다. 유형(有形)과 무형(無形)에서 중을 잡아라.(尙執厥中 윤집궐중의 중) 중은 중도이며 하늘의 진리를 중정(中正)으로 표현한다. 堯(요) 임금(堯舜) 임금에게 禪讓(선양)하며 “하늘의 운수가 그대에게 있으니 진실로 그 중(中: 지나침도 없고 모자라지도 않는 핵심)을 잡아라. 천하가 困窮(곤궁)해지면 하늘이 임금에게 내리시는 녹이 영원히 끊어질 것이다”라고 말했다. 뜰에서도 치우침과 부족함이 없고 마음에서도 치우침과 부족함이 없는 중의 상태를 말하며 무

^[1] 2022년 8월 1일 월요일

^[2] 2022년 8월 1일 월요일